

市政を問う

県道ときがわ熊谷線交差点から東側約660メートル区間が、市道90096号線は国道407号の村岡交差点から西側約320メートルの区間がそれぞれ整備完了した。また、その延伸として、県道武蔵丘陵森林公園広瀬線までの市道90007号線の整備に向けて、地元説明会を開催し、現在、測量作業を進めている。

問 本市のアセットマネジメントを進める中、南部エリアにおける課題は、

答 南部エリアの施設再編の課題は、2カ所ある庁舎の集約や再配置、2カ所ある老朽化等への対策が必要な消防署の更新や再配置、市内に4つあるホールと図書館のうち、それぞれ2つが同エリアにあるため、他のエリアとの均衡を図る視点からの検討、学校の適正規模の考え方に基づく小・中学校の統廃合、集会施設や農業振興施設など類似の重複施設の見直しなどである。

アセットマネジメントの推進については、人口減少の進行や全市的な施設再編と調整を図りつつ、引き続き検討を進める。
(行政改革推進室、都市計画課)

道路舗装の仮舗装・本舗装について



栗原健昇 議員
会派：市政クラブ

問 県道籠原停車場線(籠原駅前通り)の整備の経緯は、

答 県道籠原停車場線は、籠原中央第一土地区画整理事業により、平成24年度から用地確保された箇所を順次、街路築造工事として整備してきた。

この路線には、電線地中化の計画が位置付けられており、地中化工事を行う場合には、再度歩道の掘削が必要となることから、道路構造令等に適合する歩道の整備は電線地中化に合わせて実施することとし、歩道部分は路盤整備は行わない簡易な表層のみの仮舗装として整備した。

問 県道籠原停車場線の歩道改修を2回行ったのはなぜか。

答 仮舗装後、電線地中化について道路管理者である埼玉県と協議を進めた結果、平成29年度に、土地区画整理事業と切り離し、埼玉県の事業として整備を計画するとの協議が

調った。

県の管理道路として県に引き渡す条件として、歩道部分の舗装は道路構造令や交通バリアフリー法等に適合した本舗装工事をしてほしいとの要請が県からあったため、平成30年度に、歩道の路盤工事を含めた改修整備を実施した。

問 本町通りにも電線地中化の計画があるが、本町通りの歩道が1回の工事となった理由は、

答 市道である本町通りは、電線地中化を見据え、平成28年度に一部仮舗装で歩道整備を行った。

その後平成29年度に、電線地中化については県道籠原停車場線と同様に区画整理事業と切り離して実施することとなった。

本町通りは、市が管理する道路であり、仮舗装であっても当面の間支障がないものは今回工事を行わなかったため、1回の舗装となった。

(土地区画整理西部事務所)
○その他の質問項目

「ラグビーワールドカップ2019に向けて、タクシ業界へ配車アプリの利用促進要請を」

行政視察報告

議会運営委員会

| | | | |
|-----|-------|-------|-------|
| 委員長 | 新井 正夫 | 副委員長 | 三浦 和一 |
| 委員 | 栗原 健昇 | 福田 勝美 | |
| | 富岡 信吾 | 桜井くるみ | |
| | 小林 一貫 | 閑野 高広 | |
| | 千葉 義浩 | 影山 琢也 | |

議会運営委員会では、10月30日・31日に議会のICT化について調査するため、静岡県袋井市および神奈川県横須賀市において「タブレット端末の導入、活用」についての行政視察を行いました。

袋井市議会では、タブレット端末は議会活動のほか、議員活動にも大変有効であるとして導入を決定。導入に至る議論や、実際の端末の活用状況等について説明を受けました。

横須賀市議会では、議場内での利用を考慮し、タブレット端末としても使えるノートパソコンを導入。現在、議会資料の共有や検索、議員の予定管理や連絡調整に活用していることなどについて説明を受けました。



袋井市議会での視察

スポーツ・観光特別委員会

| | | | |
|-----|-------|-------|-------|
| 委員長 | 栗原 健昇 | 副委員長 | 野澤 久夫 |
| 委員 | 新井 正夫 | 富岡 信吾 | |
| | 小林 一貫 | 須永 宣延 | |
| | 守屋 淳 | 閑野 高広 | |
| | 小島 正泰 | 千葉 義浩 | |

スポーツ・観光特別委員会では、11月5日・6日に新潟県新潟市において行政視察を行いました。

初日には、水辺空間でぎわいを創出し、まちの活性化を図る「ミズベリング信濃川やすらぎ堤」および、スポーツの楽しさにより豊かさの向上を図る「スポーツチームと地域との連携協働」について、それぞれの経緯や手法等について説明を受けました。

翌日には同市内の新潟スタジアムで「観客輸送」について視察し、2002年FIFAワールドカップの際、3日間で延べ12万人の観客をシャトルバスで輸送した実績や、各種

取り組みなどについて説明を受けました。



新潟スタジアムを視察